

# 英米文化学会会報

第 66 号

平成 18 年 2 月 15 日



アリゾナ州にあるナヴァホ・ネーションの首府ウィンドウ・ロック。手前はナヴァホのコード・トーカーの像。第二次世界大戦中、アメリカ軍は難解で知られるナヴァホの言語を無線交信時の暗号通信言語として採用し、多数のナヴァホ出身者が暗号通信手（コード・トーカー）として従軍した。（撮影：佐野、2005年）

## 目次

- ◆ 例会担当より 英米文化学会 第 119 回例会のお知らせ
- ◆ 大会担当より 英米文化学会 第 24 回大会発表者の募集
- ◆ 財務からのお知らせ
- ◆ 事務局より 著作権・評議員会規約・会員消息など

### ◆英米文化学会 第 119 回例会のお知らせ（担当：小林弘理事）

標記の会を下記の要領で開催します。万障お繰り合わせの上、ぜひご出席下さい。

日時：平成 18 年 3 月 11 日(土) 午後 3 時～6 時 午後 2 時 30 分受付開始

場所：文京学院大学 B 館 発表会場：512 控え室：514

(地下鉄南北線 東大前下車 徒歩 0 分)

当日会費：100 円

総会：午後 5 時 20 分～50 分（例会後引き続いて総会を開きます）

懇親会：B's・ダイニング（文京学院大学 1 階）午後 6 時～8 時

会費：3000 円

懇親会のみへの参加も歓迎いたします。

## 研究発表

1. イーディス・ウォートンの『無垢の時代』における書斎の役割  
(15:10—15:50)  
発表 西垣有夏 (京都学園大学)  
司会 河内裕二 (明星大学)
  2. ハーディとウルフの作品へのハリデーの機能文法による言語分析  
(15:50—16:30)  
発表 鈴木理枝 (文京学院大学)  
司会 平川敦子 (城西大学)
- 小休止(16:30—16:40) —————
3. サッカレーのユーモア---*Vanity Fair*の場合 (16:40—17:20)  
発表 中村豪 (昭和女子大学)  
司会 丹羽正子 (昭和女子大学)

## 研究発表レジュメ

1. イーディス・ウォートンの『無垢の時代』における書斎の役割  
西垣有夏 (京都学園大学)

『無垢の時代』(*The Age of Innocence*, 1920)は、作者イーディス・ウォートン(Edith Wharton)が1870年代にすごしたニューヨークの様子を回想しながら描いた小説である。彼女は幼少の頃に父親の書斎で読書をしたことがきっかけで、当時の社交界を注意深く観察し、世間に対する強い関心をもつようになる。作者はこのような自らの体験をもとにこの作品に登場する人物ニューランド・アーチャー(Newland Archer)を描いている。ウォートンはアーチャーをニューヨークの社交界に精通している人物と位置づけ、彼がその社交界に思いを巡らせる空間として書斎を用いている。書斎に対する彼の執着は強く、彼にとって重要な空間となる。本発表では、作者ウォートンがすごした書斎での様子を分析し、『無垢の時代』の執筆に至った経緯を確認し、書斎に対するアーチャーのあり方との関連を考察する。

2. ハーディとウルフの作品へのハリデーの機能文法による言語分析  
鈴木理枝 (文京学院大学)

ハリデー (Michael Alexander Kirkwood Halliday) の機能文法の観点から、トマス・ハーディ(Thomas Hardy)の「妻ゆえに」(“To Please His Wife”)とバージニア・ウルフ(Virginia Woolf)の「壁のしみ」(“The Mark on the Wall”)における、動詞の過程構成の分析をした。そこで本発表では、ウルフの文体から、ハーディより、心理過程の動詞の使用頻度が高いという仮説を立て、ウルフの内面描写、すなわち意識の流れの解釈と動詞の過程構成との関連性を論究し、又ハーディの中心主題である宇宙意志に基いた文学的表現の中で動詞の過程構成がどのようにつくられているかを論ずる。動詞の過程構成の分析から、両作家の文体の差異も論ずる。

### 3. サッカレーのユーモア --- *Vanity Fair* の場合

中村豪 (昭和女子大学)

サッカレー(William Makepeace Thackeray)の『虚栄の市』(*Vanity Fair*)には、滑稽な場面や饒舌な語り手のユーモラスな言葉が多数含まれている。作者は作中人物の虚栄心、高慢、俗物根性、欺瞞、打算、物欲、自己保身本能等を巧みなストーリーの展開と性格描写とによって批判し諷刺したのであるが、その攻撃の一手法が笑いなのである。この笑いは往々にして直接的な毒舌よりも効果的である。これは、作者がユーモアのセンスに恵まれていたことの証であるが、本発表は、作品中の主なユーモアとそれが引きおこす笑いを分析し、同時に、作者の人間観や社会観を明らかにすることを目的としている。その方法として、本作品中で微笑・苦笑・哄笑・嘲笑を誘発する場面ならびに語り手の意見やコメントに焦点を絞り、それぞれの笑いを考察する。

例会終了後に総会を開催します

#### ◆英米文化学会第24回大会研究発表者募集のお知らせ (担当：曾村充利理事)

第24回大会は以下の要領で開催されます。

開催月日：平成18年9月9日(土)－10日(日)

場所：茨城大学

つきましては、上記大会の研究発表者を募集いたしますので、ふるってお申し込みをお願いいたします。

発表希望の先生は、ご氏名、所属(勤務先)、研究発表題名を明記の上、400字程度の抄録を添えて、以下のアドレスにメールでお送りください。発表時間は30分です。

申込締め切りは4月10日です。

発表申し込み：大会担当理事 曾村充利(MitsutoshiSomura(at)SES-online.jp)

#### ◆財務からのお願い (担当：山根正弘理事)

2年及び3年間学会費未納の会員に郵便振替用紙を同封し、「納入のお願い」として文書を発送致しました。学会運営に、皆様のご理解とご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

納入状況は、財務担当の山根 (MasahiroYamane(at)SES-online.jp) までお問合せ下さい。

年会費：5,000円

口座番号：00160-7-611777

名義人：英米文化学会

## ◆事務局（担当：大東俊一理事）より著作権・評議員会規約・会員消息など

### <出版物の著作権について>

平成 18 年度より、英米文化学会が発行する出版物に関して、著者である各会員より「著作権譲渡書」を本学会に提出して頂くことになりましたので、ご承知おき下さい。

### <評議員会規約>

以下におきまして、本学会の評議員会規約を公告致します。

#### 英米文化学会評議員会規約

##### 「構成」

第 1 条本会は英米文化学会評議員会(以下評議員会)と称する

第 2 条評議員会は、理事会の諮問を受け、答申を行う

第 3 条評議員は、理事の指名した評議員 12 名以上と理事とする

第 4 条評議員は、その任期を 2 年とし再任を妨げない

##### 「運営」

第 5 条評議員会は、会合毎に議長を選出し運営される。ただし、常任幹事若干名を選び運営準備などを任せることができる

第 6 条評議員会は不定期に会合を持ち、議決には評議員 3 分の 2 の賛成を必要とする

以上の規約は平成 11 年 4 月 1 日をもって発効する

### <会員消息>

プライバシー保護のため、PDF ファイルから削除

英米文化学会会報 第 66 号 編集/発行：英米文化学会 編集責任者：佐野潤一郎  
〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 5-27-23

英米文化学会事務局 〒339-8539 さいたま市岩槻区馬込 1288 人間総合科学大学人間科学部 大東俊一研究室内  
Tel:048-749-6111(office), - (home) E-mail:ShunichiDaito(at)SES-online.jp

年会費等振込先：郵便振替 加入者名 英米文化学会 口座番号 00160-7-611777

学会ホームページ <http://www.SES-online.jp/indexj.html>